

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		社会学 I Sociology I			担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉田 純		
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	教育・心理・社会(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	月2/月3		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
社会学は「常識的な見方」を超えて、表面的な現実の背後にある社会構造や社会関係を解明する学問である。われわれの身近な社会現象を素材に、社会学的発想および社会学理論の基本を学ぶ。									
【到達目標】									
社会学理論の基礎知識とその経験的応用事例の習得を通じて、現代社会を批判的にとらえることのできる視点・発想を身につける。									
【授業計画と内容】									
教科書に沿って、下記の順序で進める。									
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション.....授業の内容と進め方の概要 2. [1章] 社会.....社会学の対象としての「社会」とは何か 3. [2章] 行為.....行為は社会をつくり、かつ社会によってつくられる 4. [3章] 集団.....社会の部分集合としての集団とその類型 5. [4章] 家族.....社会の「私的」領域としての家族の変容 6. [5章] 都市.....社会空間としての都市の特性 7. [6章] 逸脱.....人はなぜ社会規範から逸脱するのか/しないのか 8. 期末レポート(小論文形式)についての詳細説明 9. [7章] コミュニケーション.....社会の構成要素としてのコミュニケーション 10. [8章] 知識.....社会における教育・教養・学問の存在意義 11. [9章] 宗教.....社会における宗教の存在理由 12. [10章] ジェンダー.....社会の基本構造としての性差 13. [11章] 医療と福祉.....社会の生命維持装置としての医療と福祉 14. [12章] 現代社会.....リスク、グローバリゼーション、情報化をキーワードとして現代社会のゆくえを探る(全体のまとめを兼ねる) 									
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート(小論文形式、詳細は上記のとおり第8回授業で説明) ・フィードバック(PandA上で実施、詳細は授業中に伝達) 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・観点】									
平常点(40点満点)および学期末レポート(60点満点)による。									
平常点は、授業支援システムPandA上で毎週実施する復習用課題「公開アサイメント」、およびPandAまたはTwitterを利用した質問・感想によって評価する。いずれもネット上で全履修者が閲覧できるようにする(詳細は初回授業で説明)。									
<ul style="list-style-type: none"> ・公開アサイメントとは、各回の授業につき1回ずつ提出できる小レポートである(1回3点、150~ 									
社会学 I (2)へ続く									

社会学 I (2)

250字程度、原則として毎週末締切)。

・PandAでの質問・感想も、各回の授業につき1回ずつ提出できる(1回2点、80~150字程度、原則として毎週末締切)。

・Twitterでの質問・感想は、授業時間中にリアルタイムで投稿できる(回数制限なし、1回の投稿につき1点、授業日の16時30分締切)。

上記いずれの課題とも、必ずしも毎回提出する必要はなく、合計点が40点に達すれば、平常点は満点となる。

[教科書]

奥井 智之 『社会学 第2版』(東京大学出版会) ISBN:4130520253 (PandAサイトで追加資料を配布する)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書およびPandA上で事前配布する資料を予習しておくこと。
さらに、上記のとおり、PandA上で毎週実施する公開アサイメント、PandAまたはTwitterでの質問・感想を、予習・復習に活用する。

[その他(オフィスアワー等)]

・社会のリアルタイムの動きに対する関心・好奇心の旺盛な学生を歓迎する。
・PandAサイトで公開アサイメントや課題の提出、質疑応答、資料の配付その他、授業に関する各種連絡をおこなう。利用方法は初回の授業で説明する。
・履修人数制限を行うので、掲示等で確認してください。
(教室定員に収めるため/定員150人/専用サイトで事前課題を提出)